

作品名 南大東島 ポスター

氏名 細木 智子 芸術学部観光デザイン学科真板ゼミ 4 回生

コンセプト 南大東島には素晴らしい自然や文化があるのにあまり知られていない。日本の南大東島にこんなに世界に誇れるものがあるということを伝え、南大東島に行ってみたくなるようなポスターにしたい。



自分以外の人、血のつながりの無い人、関係ない人を私たちは「他人」という。しかし、この南大東島は人口 1400 人未満。みんな顔見知りですぐ仲がいい。この島には元々「他人」なんて人はいないのだ。島には他人はいなくても、島以外からやってくる私たちは他人になってしまうということだがそれは違う。彼らには「他人」がないのだ。「同じ日本という島に住む仲間じゃないか。同じ地球に住む仲間じゃないか。」と小さな島に住む彼らは大きな心を持っているのだ。誰もがたった一人で生きていくことは不可能だし、やはりみんなで仲良くしたい。彼らはきっと私たちよりも少し素敵なのだ。「他人」なんて人はいない。あなたに大事な人がいるように、みんな大事な人がいる。「他人」なんて人はこの地球にはいないのだ。



落っことしてきた心をひろいに帰ろう。南大東島へ。



鍾乳洞は、地上に降った雨が石灰岩を溶かしていくうちに岩の小さな割れ目や隙間に沿ってしみ込み、まわりの石灰岩を少しずつ溶かして次第に割れ目を大きくしてできた洞窟だ。人が入れるようになるまでは数万年かかる。地上に降り注いだ雨の一粒一粒が岩をくり抜いて、そして今その一粒が水面にぼつりと落ちるまでどれだけの月日が過ぎたのだろうか。何万年としてかかったこの鍾乳洞も始めはたった一粒から始まった。きっと私たちの人生もそういうことなのだと思う。不祥事だとかスキャンダルとかつまらない世の中だけど、自分がやっていることが馬鹿馬鹿しく感じても、さっと横み上げてやり続けることが大切なんだと思う。それが一番嬉しいことだから。



落っことしてきた心をひろいに帰ろう。南大東島へ。